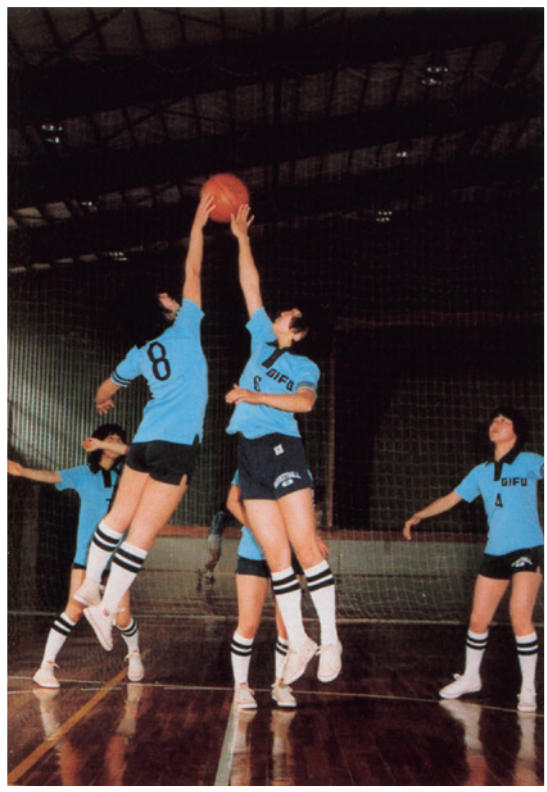


昭和56年度卒業

私たちの時代





「感謝」

昭和56年卒担当 数学科 小邑 政明



岐阜高校での思い出

一 個性豊かな生徒が多かった

数学の授業で教科書の内容を説明していたら、ある生徒が手を上げて「先生、教科書は読めばわかるので問題集の演習をやってください。」と発言した。若かった私は、それならと言って次の授業から、教科書の初等幾何の代わりに、大学レベルの内容である非ユークリッド幾何学の授業を行ったが、生徒の目は興味深そうに輝いていた。「勉強は自分でするもの、先生はその動機付けを行えばよい。」生徒の皆さんから学ばせていただいた。

ある日ホームルーム中、後ろの黒板のところに飲み残しの牛乳瓶を見つけ、「だれや、飲ませるぞ。」と言ったら、一人の生徒が手を上げて「先生、化学兵器は国際法で禁止されています。」と発言した。その機転に驚かされ、見識を広めることの大

切さを学ばせていただいた。生徒の皆さんに育てられた六年間でした。

二 硬式野球部が甲子園に出場した

部活動では、硬式野球部の副部長を拝命しノックも行いました。監督の生田先生、部長の山田先生、部員の皆さんのおかげで甲子園に出場し、二回戦まで進むことができました。

バスで出発するときや、ミーティングの様子の写真が新聞に掲載され、なぜか双方とも私の顔がクローズアップで撮られていました。アルバムに保存しています。素晴らしい思い出ありがとうございます。

三 家族ができた

当時教務部長だった富成先生の紹介で、加納高校の英語の先生とお見合いをすることになり、三ヶ月の付き合いの結果結

婚に至りました。

文化祭では私と妻の写真が一緒に掲示されました。生徒会の皆さんが私に内緒で、加納高校へ出かけ妻と交渉してきたことが後でわかり、その行動力に感心させられました。もうすぐ結婚となります。

現況

岐阜高校から、可児高校、岐阜北高校を経て、四二歳のとき県の教育委員会に転出し、その後校長等も経験させていただきました。六〇歳定年まで教壇に立つことは出来ませんでした。

その悔しさもあって、私立の鶯谷高校に「数学教師」として勤めさせていただき、今年で一四年になります。岐阜高校でいただいた力が原動力になっています。

本当にありがとうございます。

10組	9組	8組	7組	6組	5組	4組	3組	2組	1組	主 任 学 年	
大矢 邦彦	新名主典男	佐口 修一	服部 岩夫	千賀 洋子	高橋 章	小邑 政明	立川 正	太田 宏	杉江 孝	大矢 邦彦	第一学年
森 大鳳	柴田 文彦	高木 猛夫	高橋 章	河瀬 治見	小池 亮一	新名主典男	千賀 洋子	小邑 政明	太田 宏	高木 猛夫	第二学年
千賀 洋子	太田 宏	高橋 章	西尾 昭夫	中谷 達美	柴田 文彦	江崎 力	金武 幸八	高木 猛夫	小邑 政明	高木 猛夫	第三学年

恩師との思い出 学校生活の思い出

数学の問題が解けないと「パルコの前を歩いてるおばあさんに聞いてこい。こんな問題さらさら解いてくれるわ」と言われた。今なら大爆笑

若くてカッコいい社会の先生。用もないのに職員室へしょっちゅう通いました。

厳しい先生が、修学旅行に行く小豆島の事を「こまめしま」と言って奥さんに馬鹿にされたとホットな話をしてくれた。こんな一面もあるのかと思った。

質問に答えられなくて何人が立たされ「お前ら、お手で繋いでそこから長良川へ飛び込め！」と言われた。こんな問題、猿でも出来る。が口癖でした。

英語の先生はプロレスラーの吉村道明の門下生で、教師になるかプロレスラーになるか迷ったとお聞きしました。

北海道大学医学部を受験したいと言ったら、北大で何がしたいとかが無いなら岐阜大学で良いじゃないかと言われて今があります。

あの時僕は何故殴られたのでしょうか？今なら大問題？でも僕が悪かったのかなあ？

林間学舎で貧血気味で途中リタイア。先生と2人で無言で下山した苦い思い出。

大会で準優勝した際、いつも校舎からみてくれていた校長先生から直接褒めてもらった事は忘れられません。

おしゃれでネクタイが毎日変わっていた国語の先生。お気に入りの女の子の机に肘を付く癖があったので男子が机にチョークを塗るはずらを仕掛けスーツが汚れてしてやったり(笑)

授業中、うるさかったのか、答えられないからか、黒板消しが飛んできました。

「答えは問題と向き合えばわかる」と言われたが、答えが違っていたので、「問題と向き合ったらこの答えが出ました」と言ったらいつもは怒る先生もタジタジだった。

「三角関数とか微積分社会に出て役に立つのですか」と尋ねたら「情報処理能力を養うため」と言われた。

学帽をかぶらず自転車登校、入口前にかぶって登校したら後ろから車で出勤してきた先生にみづかり頭を叩かれた。

人生百年超の時代 「しなやか」に生きる

昭和56年卒

井藤 正俊



六二歳になり、高校時代のことを振り返れば、まさに異常だった。

一部の教師は、成績至上主義にただ燃え、授業中、権威を振りかざしていた。数学の問題が解けないだけで、「目、かんで死ぬ！」と生徒に辛辣な言葉を浴びせた。突然、英語で話し出し、生徒が応答できないと、「授業に集中してないからだ」と罵倒した。質問にただ答えられぬだけで、小雪舞う冬の校庭を裸足で走らせる教師もいた。

今ならパワハラ・モラハラで即刻レッドカードの大問題。そんな教師の愚行がまかり通った時代だった。

私たちの世代は、戦争を知らない。ただ、私が幼少の頃、昔の国鉄(今のJR)岐阜駅や金神社などに、白い服を着た傷痍軍人さんが首を垂れておいでだった。社会全体に戦争の熾火のきな臭い香が微かにまだしていたのだった。くだんの教師たちは、悪しき軍国主義に塗り固められた、悲しい存在だったのかも知れない。

高校を卒業し、多くの者たちが岐阜を離れた。異なる世界に身を置き、それぞれ的人生を歩み出した。しばらくして、同級生の幾人かが自死したと、他の同窓生から知らされた。

それぞれが、私などが想像もできないほどの大きな問題を抱え、きつと苦悩したのだろう。そう思うと、胸がキリキリと痛んだし、今もそうだ。そして、ふと、思うのだ——高校時代、もっと違う何かを教わっていたのなら、と。

彼らが自死した原因が、高校にあったなどという気は無論ない。ただ、私が思うのは、高校で、ひとつの価値観にとらわれない多様な生き方を、教師が生徒に気づかせてくれたのなら、と思うのだ。いや、高校に限らず、教育そのものの意義は、そこにあるのではないのか、と思いたえる。

昨年、中学時代の八六歳になる恩師とお会いする機会があった。その際、恩師から意外な話をうかがった。

「人生百年時代というが、これからの自分の手本が、ないのだよ——」
耳を疑った。孔子曰く、四〇にして惑わず。ところがその倍の年齢の恩師でさえ、生きることに迷う現実。だがすぐに、それが真の生ではないのか？これこそが生きた教えではないのかと、素直に迷いを吐露してくださいました。私には心から感謝せずにはいられない。

かった。

人生、百年の時代。その意味するとは何だろうか。ひと言でいえば、私たちは、死ぬまで生き続けねばならない存在と化すことだ。医学や科学の進歩は、百年どころか、人々の寿命をさらに延ばす。いったい私たちは、このことをどう受け止めればよいのか。

私は、二つの準備が必要だと思う。一つは経済的な備え。いま一つが心だ。後者について私なりの考えを少し書こう。

それは「しなやかな心」に他ならない。長く生きれば、親しい者たちとも別れが来る。逆縁もある。それらを動揺せず受入れる、あるいはやり過ぎす心

を持たねばならない。

かくあるべしと心を焦がすのではなく、さもあらんと許容できる柔軟さ。他者と比較せず、自分が求めることを正直に求めるが、他者に迷惑がかかるようであれば、あっさり引つ込められる度量。そして、心になんか口にせず、興に乗らない。

趣味は人生に潤いを与えよう。ただ、運動ばかりか文化系の、家でできることも幾つか持ちたい。終盤は家にいることが多くなるだろうから。

そして、微笑んで暮らす——。当たり前のことばかりかも知れないが、これらが私の考える「しなやかな生き方」である。

今に思う、私の岐阜高校

昭和56年卒

山内 光代

「千仞の嶽金華山、百里の水長良川」で始まる母校岐阜高等学校校歌。金華山と長良川が歌われる歌詞に、当時岐阜市民だった私は、強く愛着を感じました。しかし、続く「国家のために明け暮れ学ぶ」まで聞くと、清流長良川は何処へやら。屈強な印象に変わりました。それと同時に、昼も夜も勉学に勤しまなければならぬのか？これはとんでもない学校に来てしまったぞと、ある意味プレッシャーすら感じたのは、私だけでしょうか。

三年間に私は、やり残したことが二つありました。校歌に歌われている、その明け暮れ学べなかつたことを含めると、三つになります。そこは見逃して、話を進めましょう。では、その二つとは、友人作りと部活です。そもそも、私の高校生活と



言えば、朝はお決まり通り登校し、苦
手な数学の時間は「お願い、当てない
で。」と心で念じびくびく過ごしたもので
した。一日終われば、自転車こいで、
雨の日はバスに揺られ帰宅するという、
至って平凡な毎日でした。これではい
かんと一念発起。二年生になって入部
した庭球部。しかし、そこでも初心者
の私は、上手なプレーヤーを尻目に、
何となく練習するだけの部活でした。
こうして、三年間を過ごした私は、地
元の国立大学に進学を決め、学び舎を
去っていきました。

それから早くも、四〇年以上の時間
が経ちました。育児が一段落すると、
社会に少しでも恩返しをしようと仕事
に没頭しつつ、時代も平成・令和と移
り変わり、私も還暦を迎えました。一〇
年くらい前から健康増進のため始めた
ジョギングも気が付けばハーフマラソ
ンを完走するまでになりました。今で
は、私の楽しみの一つです。走ってい
るとふと、なぜこんな苦しい思いをし
てまで、走るのだろうと思うことがあ
ります。よくよく考えれば、高校時代、

運動に十分打ち込めなかった自分を、
取り戻そうとしているのかも生まれませ
ん。それから、不思議なことに、走り
始めてから高校時代は親交のなかった
同級生とつながりを持つことができ、
近況を伝え合っています。中には、私
と同じように走ることが趣味の同級生
もいます。彼らと情報交流をすることで、
また一段と走る意欲を高めることがで
きます。

こうして、高校時代にやり残したこ
とを四〇年以上の時を経て、実現する
ことができました。そりゃ、ティーン
エイジで打ち込む部活や友人関係とは、
少し味は違うかもしれませんが、ですが、
今だからこそつながった人間関係も、
また味があつていいものです。元をた
どれば、そこに岐阜高等学校がありま
す。同じ場所で同じ時間を過ごした仲
間だから。そう考えると、私は岐阜高
等学校に入学してよかったと思います。
そして、母校を誇りに思います。国家
のために明け暮れ学ぶことは叶いませ
んでしたが。

薬学部教員となって

昭和56年卒
吉村 知哲

私は長年病院薬剤師として勤務した
後、令和五年度から母校の岐阜薬科大
学(以下、本学)で教員をしています。
本学では、他大学と同様に出身県や地

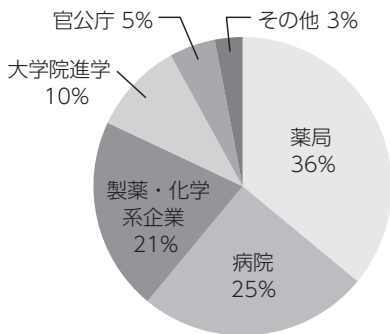
域、高校ごとに〇〇人会という出身を
同じくする者の会があり、その中の一
つに「岐高人会」があります。令和五年
度現在では、一回生から六回生、大学



院生を合わせて五五人が在籍しており、
教員は三人います。特に、一回生は一三
人が在籍し、一学年の定員が一二〇人
であるので実に一〇人に一人が岐阜高
校出身者になります。私も在学中は「岐
高人会」に参加し、先生方や先輩、後輩
と交流し楽しい時間を過ごしたことが
今でも懐かしく思い出されます。社会
に出てからも「岐高人会」で知り合った
方々と色々な繋がりを持っておりあり
がたく思っています。

二〇〇六年に薬学部がこれまでの四
年制から六年制になりました。本学の
令和四年度の卒業生の進路を図に示し
ます。医薬分業が進み、薬局・ドラッ
グストアが三六%と最も多くを占めて
います。次いで、病院が二五%、製薬

岐阜薬科大学
令和4年度卒業生進路



会社などの企業が二一%、官公庁が五
%です。薬剤師の仕事内容は幅広く、
病院や薬局で薬を扱う、いわゆる薬剤
師だけでなく、薬剤師免許を必ずしも
必要としない薬の研究開発、国や県、
市などでの薬事行政、保健所での衛生
業務、学校での環境衛生などにも携わっ
ています。

この原稿を書いている令和六年一月
末は、元日に発生した能登半島地震の
被災地でのボランティア活動も始まっ
た時です。薬剤師もDMAT、JMAT
などのチームに入って活動しています。
本学が所有しているモバイルファーマ
シー(移動薬局)
(写真は一月八
日に全国に先駆
けて珠洲市に入
り活動しました。
その後、珠洲
市の岐阜県薬剤
師会担当の避難
所で、継続して薬剤師を派遣して活動
を行っています。能登半島地震で亡く
なられた方々のご冥福をお祈りしま
すとともに、被害に遭われた方々にお見
舞いを申し上げます。この原稿が皆様
に届く頃には、復興が進み少しでも従
来の日常生活を取り戻すことができて
いることを願っています。



薬学部教員となってまだ一年ですが、
これまでの病院薬剤師としての経験も
活かして学生教育、研究、社会活動等
に精一杯取り組んでいきたいと考え
ます。

平成3年度卒業

私たちの時代



6



7



8



9



10



11



岐阜高等学校 平成3年度卒生の思い出

平成3年卒担当 数学科 堀 有吾



数学を担当しました、堀有吾です。岐阜高校では昭和六三年から平成九年まで在職しました。

現在は、昨年の四月から、近所の大垣日本大学高等学校で、非常勤講師で週四日勤務しています。健康維持とボケ防止に変役立っています。八月には阪神甲子園球場に生徒の応援に行きました。

平成3年度卒生の方々の思い出は、当時はまだ三〇歳で、可児高校から赴任して何もかも新しいことだらけで、職場に慣れるまで大変だったことを思い出します。また、その年は、昭和から平成へ元号が変わり、日本の歴史において重要な瞬間でした。平成への新しい時代へのステップは、経済の成長や社会の変革をもたらしました。

岐阜高校での一番の思い出は三年間担任をさせていただいたことです。

一年九組は男子クラスでした。とても元氣な生徒が集まっていました。一番の思い出は、七月下旬に行った新穂高温泉の林間学校で、特別な体験となりました。山々に囲まれた自然の美しさや温泉の癒しはもとより、夕食後のクラス別の隠し芸大会で大いに盛り上がった楽しい時間が思い出されます。

二年八組は文系男子クラスでした。とても個性が強い生徒が集まっていました。一番の思い出は、一〇月初旬に行われた文化祭で、「堀有吾物語」のビデオ作品制作です。クラス全員で協力して創り上げた映像は、多くの生徒を集め、大変好評だったことを覚えています。

三年五組は理系の男女クラスでした。とても優秀な生徒が集まっていました。一番の思い出は、一〇月初旬に行われた文化祭でフォークダンス大会を主催し、クラス全員で協力してエネ

ルギッシュで楽しいパフォーマンスを披露しました。参加者の心を一体にする素晴らしいイベントになりました。

最後に、これからの皆さんにアドバイスとして、五〇代において大切なことは、自分自身との調和を図りながら、人間関係や健康に焦点を当てることです。バランスのとれた生活、深いつながり、健康的なライフスタイルが、この時期の充実感を築くのに役立ちます。また、経験を活かし新たな挑戦にも積極的に取り組むことが、豊かな人生を築く鍵となります。これから、皆さんの健康で益々のご活躍をお祈りします。

追伸、昨年から活動してくださった同窓会幹事の方々、特に佐藤けいこさん(旧姓川島さん)には色々お世話になりました。お礼の言葉を述べて、私のメッセージを終わります。

11組	10組	9組	8組	7組	6組	5組	4組	3組	2組	1組	主任 学年	
小山 徹	山田 晶子	堀 有吾	小島 洋	網野 俊六	篠田 文子	岩田 孝志	鈴木 康道	丸山 宏	高橋 勝美	横山 泰	岩田 孝志	第一学年
大竹 克昌	宮川 直樹	奥長さゆり	堀 有吾	小林 達夫	岩田 孝志	望月 俊実	鈴木 康道	古賀 悟	小山 徹	網野 俊六	岩田 孝志	第二学年
大野 昭義	田村 弘司	小山 徹	鈴木 康道	大竹 克昌	宮川 直樹	堀 有吾	古賀 悟	佐藤 和良	網野 俊六	窪田 範男	岩田 孝志	第三学年

恩師との思い出 学校生活の思い出

高1の文化祭、出し物は担任の先生の独断でまさかの詩吟!?まじか?ダサすぎだろ…。楽しみにしていた女子高の文化祭もお預けて練習に明け暮れました。「べんせいしゅくしゅくよるかわをわたる」は今でも脳裏に焼き付いています。

高校2年の文化祭でビデオムービー「YH物語 (YHは担任のイニシャル)」を作成上映しました。先生を題材に主人公をI君が演じました。とても秀逸で撮影現場で笑いをこらえるのに必死でした。当日の上映会は大盛況でした。

教育次長になられていた1年時の担任の先生が、「私の教え子の仕事だ。見に行きたい。」と県教委で史跡公園の整備を担当している私を覚えていて視察に来て下さりとてもうれしかったです。同窓が繋ぐ古くて新しい出会いに感謝です。

クラス企画のフォークダンスで成就しない恋心を抱いていた彼女と手をつないで踊れたこと。彼女には全く意識されていなかったからこそ、さりげなく近づいて隣に並べました。その後しっかりフラれました。(笑)

球技大会で3年の時バスケットボールでクラス優勝したことも嬉しかったけれど、1年生の時の試合でたまたま入った0度からのミドルシュートの感触が忘れられず、五十路の今も続いています。(高校時代はサッカー部でした)

1年生の時に体育委員会に入りました。生徒会室に入りびたり、先輩方とワイワイガヤガヤ楽しかったのを覚えています。反省会は柳ヶ瀬のマックでした。楽しかった～。

郊外に昼食を買いに出かけたのを見つかり、そのまま体育教官室に連行され正座。目から火花が出るほどのメガトンパンチで頭を「ゴッソ！」とやられました。不思議と嫌な気持ちにはなりませんでした。(※決して)

授業が難しかった事が真っ先に頭に浮かびます。教科書を使わない授業もあったし、内容を説明しない時もあったので、付いていくのが本当に大変でした。

校長先生もお務めになった生物の先生の「いいか、おまえら」「定着しとるか」などの言葉は、今でもはっきりと覚えています。よくわかる授業をされる、生徒思いのとても優しい先生でした。

珍問が好きな日本史の先生。先生の数々の素敵な難問に苦戦して追試を受けている間に好きだった男子に彼女ができていました。

一生の友

昨年(二〇二三年)、五〇歳になりました。私は遅生まれですので、同級生の多くは一つ上の五二歳になっています。

私にとって、岐阜高校を選んだことは人生で最も良い選択の一つだったと思っています。中学三年生の時、進学先に迷っていた私は、「岐阜高校は制服が地味」「勉強ばかりはいやだ」などと、勝手なイメージで文句ばかり言っていました。すると、塾の先生が言ったのです。

「きつと一生の友ができるよ」

その言葉に背中を押されて進学すると、そこには「文武両道」を地でいく、勉強も部活も適度にがんばり、そして遊びには全力投球の人たちがいました。

話題が現在に飛びますが、何年か前から、なつかしい「林間学舎」に同級生と家族が集まるようになりました(卒業生は利用が可能ですので、おすすめです)。トイレは昔よりきれいになり、地下の温泉は変わらず最高です。夜は満天の星空。五〇歳になった夏に、いい歳のおじさんおばさんたちが寝転んで「全員で同時に流れ星を見るまで寝られません」という高校生のような遊びをしながら、また思いました。

「あ、岐阜高校に行ってよかったなあ」私は大学を卒業後、小規模の出版社に入り、絵本や読み物など子どもの本



平成3年卒
鈴木 亜紀

の編集者として仕事を続けてきました。未来を担う子どもたちに読まれる本を作る仕事は、とてもやりがいがあります。特に私は「ノンフィクション読み物」(実際にあったお話)という分野が好きで、作家さんと一緒にさまざまな人や出来事取材しては、本にまとめてきました。例えば、ダウン症の書家・金澤翔子さんの本や、東日本大震災後に復興のシンボルとなった三陸鉄道の本などは思い出深いです。また昨年は、担当した朝鮮北部からの引き揚げ回想記『風さわぐ北のまちから』(遠藤みえ子・著)が、小学館児童出版文化賞をいただきました。

やりがいある職を得て幸せではありますが、五〇歳を過ぎて、もっと自分の内面から出てくる思いに従って生きてみたいという思いも湧いてきています。今度は星を見ながら、友人たちと一緒にに人生相談してみたいと思います。社会のいろいろな場所に、同じ学び舎を出た同級生や先輩後輩の皆さまががんばっている。それを思うと力が湧いてきます。そのことに感謝をし、友人たちの「一生の友」でありたいと思っています。

仏教

— 眞理を伝える智慧 —

五〇歳近くになって、国の科学技術政策に携わっていた立場から、突然実家のお寺を継ぐこととなり、それまでおぼろげにしか知らなかった仏教に本格的に触れる機会を得た。そしてその奥深さに触れて、もう少し早くから仏教的な考え方を知っていたら、随分もの見方が違ったであろうと感じていた。そんな時に、同窓会誌への寄稿依頼をいただき、この東洋的な叡智の結晶であり、日本の文化の底流の一つである仏教について、少しでも紹介できないかと思い、筆を執った。

仏教について、多くの人は、神秘的な力を持った仏や菩薩を崇め、お祈りをすることに、開運、無病息災などのご利益を得たり、お経や祈祷により死者の魂を安らげたりする宗教であるという印象を持っているのではないだろうか？

実は、仏教の本質はそのようなところにはない。その特徴は、眞理を伝える智慧の教えとして表すことができる。

お釈迦様は、約二五〇〇年前にインド北部の小国の王子として生まれ、人間の苦しみが生まれるのかを考え抜いて、世界のあるがままの眞理を悟り、ブッダ(目覚めた者)となった。そして、眞理に暗く、無明の闇の中で愛欲や憎しみにとられ苦しんでいる人々を目覚めさせ、苦しみで満ちた心を安らかな心に変えていくための具体的な方法論を説いた。それが仏教である。

お釈迦様が悟った眞理とは何だろうか。それは、「縁起の道理」として説かれてい



平成3年卒
大洞 龍真

る。全てのものは因果の関わり合い(縁)の中で存在していて、独立して存在しているものは何もない、ということである。そして、私たちが存在していると思っているものは、さまざまな縁が一時的に集まって現れた(起こった)ものに過ぎないと説かれる。そこには、他の多くの宗教のように、世界を創り出した創造神は必要でなく、ただ世界の法則、眞理のはたきだけがある。

最新の宇宙論では、真空の揺らぎの中から、膨大なエネルギーが正物質と反物質として放出され、それらがぶつかり合う中で、正物質がわずかに残って、今の宇宙のもととなる物質ができたといわれている。宇宙の創造も、物理法則に基づく原因(因)と結果(果)の関わり合いの中で起こることを示している。二五〇〇年前に、お釈迦様は、このような現代の科学的知見とも矛盾しない形で世界の姿を観ていった。

「縁起の道理」を通してみれば、あらゆるものは関わり合いの中で移ろいゆき諸行無常、永遠に存在する実体はない諸法無我、ということになる。そして、今まで厳然と存在すると考えていた世界が、実は諸行無常であり、諸法無我であることに気がつく、自分がこだわっている地位や名譽、財産などといったものが、

移ろいゆく仮のものであり、執着する必要が無いものであると教えてくれる。また、自分の命は、友人や同僚、家族、動物、植物、そして山、川、海、森などの自然と関わり合い、それらに支えられている「生かされている命」であるということにも気がつく。また、死や病氣、老い、愛する人との別れなどに代表されるような、本当は自分の思い通りにはならないことを思い通りにしたいという執着が自分を苦しめており、そこから解放されることに本当の心の安らぎにつながることに気がついていく。

このように、ありのままの真理を見極めることが仏の悟りであり、「智慧」である。そして、誰もが真理に目覚め、仏になることができるというのが仏教の最大の特徴であり、魅力である。そこには西洋の一神教のように、神と人間との間に厳密な区別がない。またこれは、仏教が生んだ者のための宗教ではなく、今を生

「ヒヤクセツフトウ」に 支えられて…

岐阜高校の卒業生ならみなが知っている「百折不撓」。学生時代は何度も繰り返す耳にするものの正直全く意味が解りませんでした。ただ名門校の校訓として、なにか大切な在り方のことを言っているんだなあ…ということくらいは理解していましたが、もちろん、今でも、どこまで正しくそして深く理解出来ているのかは甚だ疑問ではありますが、ただ、少なくとも高校を卒業してからの三〇年以上

生きる私たちが、迷いを離れて、苦しみから解放されるための教えであるということを表している。

日本に伝わった大乘仏教では、人間の力を越え、すべてのものを生み出す根源ともいえる真理(真如)を、阿弥陀如来や大日如来、釈迦如来などの仏として表してきた。また、それらの仏が、真理に迷い、自らが作り出した苦しみに沈んでいる衆生を救済するはたらきが、仏の「慈悲」である。

二〇世紀最高の科学者といわれるアインシュタインは、人格神としての神は信じていなかったようだが、自然の法則の中に神を見ていた。そして、「現代科学に欠けているものを埋め合わせてくれる宗教は仏教である」という言葉を残し、この東洋的な宗教の中に、科学と手を取り合って、現代人の心のよりどころとなる大きな可能性を見いだしていた。



平成3年卒
小石亜希子

に渡って、知らず知らずのうちに私の心の奥底で影響を与え続けてくれていた言葉であることは、今振り返って改めて感じます。

今回の寄稿では、私の人生のさまざまな転機に直面した際、百折不撓の精神がどのように私を支えてくれたかについて

少しだけお話ししたいと思います。ごくごく平凡な一人の卒業生のつばやきとして気軽に読み進めていただければ幸いです。

私はもともといるんことを理解するのにとても時間がかかる性質です。その上自分で納得しないと梃子でも動かさないという頑固な性質も持ち合わせています。その性質のおかげで、学生時代は特に苦勞しました。暗記が苦手で、自分の中でストーリーとして理解出来ない歩を進めることが出来ない、本を読むのも苦手、何が書いてあるのか理解出来ない、文章を書くのも苦手、どう書けばよいかわからない…。こんな状態でしたから、正直、高校で何を勉強したのか全くもって覚えていません(笑)。

そんな私に転機が訪れたのは、大学四年生の時でした。前述の性質ゆえ、就職活動のやり方もわからずでこずつている間に夏も過ぎていきました。親や次々と進路を決めていく同級生への見栄もあり「何か意志をもって行動しているっぽいパフォーマンスだけは見せておかなければ…そんな下心だけで他大学の大学院(しかも専攻を変更して)を受けることにしました。しかし、初めから進学を目指して勉強してきたわけではありませんが、そもそも専門用語の理解以前に、専門書の日本語の言い回しがわからないのです。一方、すでに指導教官も巻き込んでいたから、逃げるわけにもいかない、そんな背水の陣の状況の中、「ヒヤクセツフトウ」…ふと頭にこの言葉がよぎりました。その瞬間、何かが吹っ切れたように、その時の私に必要な勉強の仕方が浮かび、わき目もふらず勉強に励み、倍率一〇倍以上の大学院に奇跡的に合格してしまいました。合格通知をいただいた時は「何か

の間違いでは…」と何度も思いましたし、実は今でも神様がいたずらをされたんだろうなと思っています。

ただ、この転機を境に、私は臨床心理士としての道を歩むことになり、その後さらに一度は挫折しかけた音楽の道も自分のペースで続けていきたいと声楽家としての道も並行して歩むことになりました。大谷翔平選手の活躍のおかげで、今こそ「二刀流」が容認されるようになりましたが、ここに至るには、「どちらも永遠に追求していかねければならない領域なのに、並行するなんて中途半端じゃないの?」そんな姿勢は許されないんじゃないの?」と満足のいく結果が出せないたびに自問自答して折れそうになることも多々ありました。しかしそんな時に限って、いつも心のどこから聞こえてくる「ヒヤクセツフトウ」に支えられてなんとか進んできました。実は、この原稿を執筆しているこの瞬間も、私にとって大変重要なコンサートを半月後に控えているにもかかわらず、まだ満足のいくレベルに達していない…まさに折れそうな状況です。それでも、この原稿の執筆という思いがけない縁により百折不撓の精神を思い出すきっかけになり、また今回もこの言葉に支えられながら次に進んでいけそうな気になってきました。いや進んでいきます。

私の人生のモットーは「この地球を卒業する瞬間に、いい人生だったなあ。やれること精いっぱいやったじゃん」と思えるような人生を歩むこと。その人生の傍らには、いつも「百折不撓」の精神が寄り添ってくれらるだろうな…としみじみと再確認しながら、筆を置きます(パソコンを閉じます?)。

平成13年度卒業

私たちの時代





6



7



8



9



10



挑戦者の自覚と気概

平成13年卒担当 地歴科 高瀬 昭範



岐阜高校に赴任したのは平成一一年四月である。一三年間在職したが、学校の大きな転換期に当たり、様々な経験ができたことは望外の幸せである。改めて振り返ると、多くの生徒や先生方、保護者の方々との出会いがあり、思い出すことも多い。いくつか書くことにする。

一．赴任した平成一一年度には、「二一世紀将来構想委員会」が立ち上がり、「岐阜高校の将来像を見据えた新しい教育理念(School Identity)」を構築するため、熱心な討議が重ねられた。多くの先生方の生徒観、教育観を学ぶよい機会となった。その議論は、二年後に、知性と精神性を高い次元で統合し、自他に対する責任を全うすることで社会に貢献する「トータル・パーソン」の育成を目指す、「岐阜高校S-I概念図」として完成した。

二．平成一一年度にはすでに「校舎改築検討委員会」という校内組織が設置されており、学校からの提案をまとめていたが、その後数年機能することはなかった。やっと平成一七、一八年度には校舎の耐震補強工事が実施され、一八年度か

ら校舎改築計画が再始動することになった。実行委員会には多くの職員や生徒から提案要望が出された。特に委員会が強く要望したのは、校舎の建築方向は太陽光がでるだけ遮れるように合わせるのと、土足と上履きの兼用を禁止することであった。旧校舎では朝から直接東からの陽光が入り、午後には西日が入る。今では考えられないが、摂氏三八度もある冷房無しの四階教室で授業が行われていたことは忘れられない。生徒も教員も全身汗まみれであった。そのような経験があり、校舎の配置方向には特に強い要望があったのである。その要望は平成二二年に完成した現校舎に見事に反映されている。

旧校舎で学校生活を送った卒業生からは、多くの思い出話を聞くが、今となっては懐かしい限りである。

三．岐阜高校在職中は、硬式野球部長を務めた。「情熱なき者は去れ」「何事も礼儀から」の部訓の下、多くの生徒達がエネルギーギッシュに活動した。常に甲子園出場への挑戦者の自覚と気概を持ち続けるよ

う、顧問全員で生徒達を鼓舞し応援した。短時間で最大限の成果を出せるように練習も追い込んだが、生徒達も決して挫けることなく、負けじと食いついてきたのが懐かしい。平成一三年の夏には、昨年現役を退いた松田宣浩選手のいた中京とも戦い、逆転勝利を収めた。この年、ベスト四に入っている。

生徒達の何事も簡単には諦めない精神力は、野球だけにとどまらず大学入試においても余すことなく発揮され、極めて優秀な成果を収めた。これは岐阜高校生全体に共通する最大の長所でもある。

昨年、学校創立一五〇周年(野球部は創部一四〇年)を迎えた岐阜高校の伝統はこれからも引き継がれていくであろう。新たな時代の課題は山積している。しかし、何事も、達成不可能だと思ひ込む先入観が全ての可能性を遮ることとなるのは、不可能とされた二刀流を成功させた大谷翔平選手に証明されている。今後も、挑戦者の自覚と気概を持ち続けるたくましい生徒達(トータル・パーソン)を生み出し続ける学校であることを願うのみである。

10組	9組	8組	7組	6組	5組	4組	3組	2組	1組	主 任 学 年	
下川 治	北川 邦夫	石井 清治	高岡 誠	国江 秀吉	木田 強	鈴木 健	林 辰郎	大熊 厚志	朝野 千広	前田 伸	第一学年
和田 喜孝	乾 洋一郎	大熊 厚志	下川 治	森 淳子	石崎 吉一	木田 強	林 辰郎	岸田 規男	谷口 丈二	前田 伸	第二学年
下川 治	高瀬 昭範	大熊 厚志	和田 喜孝	木田 強	乾 洋一郎	林 辰郎	石崎 吉一	谷口 丈二	岸田 規男	前田 伸	第三学年

恩師との思い出 学校生活の思い出

新たに設立したハンドボール同好会の活動場所を確保する為に、陸上部が練習している長良川の河川敷の隣で毎日草むしりをしてハンドボールコート一面分を整地したこと。担任の先生に顧問を引き受けて頂き、まさにリアルROOKIESでした。今でも正式に部活動として活動していることをとても嬉しく思います。

先生が「こころへんでは東大より岐高」と言っていました。社会人になり岐阜に戻ってきて岐高ブランドを感じます。

あぶらとり紙で顔のあぶらを取っていたら、「女は男のあぶらのおいによって来るんだぞ」と担任に言われました。

先生方が受験に関係ないと宣言した後のマニアックな話が面白くて勉強のモチベーションにつながりました。

イケてるグループでもないのに、ちょっと冒険して髪を暗いグリーンに染めたらメチャクチャ怒られて翌日黒に戻しました。

夏は「シャツ出しとるヤツは大学落ちるぞ」とよく言われましたが、何とか受けました。

授業の雑談で「KFC」は「慶應藤沢キャンパス」と教えられ、今でもケンタッキーは「慶應藤沢キャンパス」と読んでしまいます。

2年次に赴任されてきた先生と父の宗派が同じで近い関係でした。ある日生徒指導の先生にパーマを疑われ生徒指導室に連れていかれた私は天然パーマで違反していないと主張しましたが、聞き入れてもらえず泣きたくなるほど長い時間言い争っていました。そこに先生が「お前の髪が天然である事はお父さんを知ってるから間違いないだろう」と潔白を証明してもらえ、先生が仏様にみえました。

宿題を忘れたとき辞書で頭をよく叩かれた。今ではNGですが当時は当たり前の世界でした。

岐阜の周産期医療に 従事する中で

平成13年卒

志賀 友美



岐阜高校を卒業した後、私は岐阜大学医学部に入學、初期臨床研修医を経て、二〇〇九年に岐阜大学

産婦人科の多くは何か持病があったり、妊娠合併症を発症された方です。そのような妊婦さんがいかに安全に妊娠出産を終え、その後の赤ちゃんとの生活を順調にスタートさせられるか、それをサポートすることにやりがいを感じています。

医学部産科婦人科学教室に入局しました。その後は岐阜県内の関連病院を渡り歩き、二〇一四年に岐阜大学医学部附属病院に戻ってきました。ずっと近くにいなながらも、一度も岐阜高校の同窓会に参加したことがありませんでしたが、今回幹事学生年だと連絡をいただき、高校時代を懐かしく思い出す良いきっかけになりました。西日が眩しかった校舎、毎日のように通った体育館、応援団の練習をした堤防、小テストの勉強をしながら乗っていた市電、あの頃は毎日が一生涯懸命で、日々楽しくも必死に過ごしていた気がします。

医者になってから、「なぜ医者になろうと思ったのか」とよく問われます。高校時代の私はなぜ医学部に進もうと思ったのか、当時はまだ二〇年後の自分がどんな生き方をしているのか、想像もできませんでした。今私は二歳の男の子を育てながら、家族や職場のサポートを得て、大学病院でフルタイム勤務し、月二回だけです。専門は産婦人科の中でも周産期、腹腔鏡手術、遺伝診療です。大学病院を受診され

る妊婦さんの多くは何か持病があったり、妊娠合併症を発症された方です。そのような妊婦さんがいかに安全に妊娠出産を終え、その後の赤ちゃんとの生活を順調にスタートさせられるか、それをサポートすることにやりがいを感じています。しかし今、岐阜の周産期医療は元々の人手不足に加え、集約化の失敗や団塊の世代の先生方の退職、働き方改革が拍車をかけ、診療体制を維持できなくなるあつと一歩のところに来ています。医療崩壊を防ぐため私たちができること、その一つが仲間を増やすことです。医学生や研修医に産婦人科の魅力を伝えるため、臨床教育に力を入れ、ハンズオンセミナーを開催したりしています。また先日岐阜高校の医学部に興味のある学生に産婦人科の魅力について語るという機会をいただきました。皆真剣な眼差しで話を聞いてくれ、特に手術画像を流した時には食いつくように画像を見ていたのが印象的でした。将来を考える一助となり、そしてあわよくば一人でも産婦人科の仲間になってくれると嬉しいですね。

産婦人科医になって一五年、もっと外の世界に出れば良かったとか、もっとこれを勉強しておけば良かったとか、後悔することもありますが、産婦人科医という仕事を選んで良かったと心から思っています。今の働き方をさせてもえらえる環境への感謝を忘れず、これからも邁進していきたいと思えます。

「探究を続けること」

平成13年卒

棚橋 知子



このたびは、寄稿の機会をいただきありがとうございます。私は、岐阜高校卒業後、京都大学法学部を卒業し、平成二一年に裁判官に任官しました。

高校時代を振り返ると、一番の思い出は、人との出会いに恵まれたことです。

入学当初の私は、落ちこぼれ気味で、今でも、英語の予習を忘れて焦る悪夢を見るほど、授業についていくのが大変でした。司法試験の受験のほうが大変で、「百折不撓努めてやまず」と自分を鼓舞する日々でしたが、なぜか司法試験の夢は見えず、高校の頃の夢を見ます。

そんな中、私は、目標に向かって努力する友達に恵まれ、友達に巻き込んでもらううちに、次第に勉強についていけるようになりました。友達とは、ケーバイキング、体育祭の応援団、高校生フイズ(黒歴史)、写真甲子園など、高校生らしい思い出もたくさんあり、本当に楽しい三年間でした。なんでも話すことのできる生涯の友達と出会えたことは、私の大きな財産です。

また、岐阜高校の先生方は、生き生きと魅力的で、探究を続けておられました。先生方のご指導により、人生の可能性を広げていただきましたし、先生になることが私の夢の一つにもなりました。

私は、もともと弁護士志望でしたが、司法修習中に裁判官の仕事や人柄にあらがれて、裁判官に任官しました。

これまで、東京、ミュンヘン(留学)、中津(大分)、敦賀(福井)と転勤し、現在、大阪地方裁判所で、民事事件を担当しています。これまでに、刑事事件や家事事件なども経験したほか、最高裁判所で勤務していた時には、法制審議会(法律の制定、改正について議論する場)に出席するなど、様々な経験をしました。

裁判官の仕事は、人の人生を大きく左右するものであり、その責任の重さを日々痛感しますが、真摯に取り組んだ結果、当事者にとって納得いく良い解決ができたときには、大きなやりがいを感じます。

裁判官は、公務員ですので、不自由なイメージがあるかもしれませんが、実際には、憲法、法律以外には拘束されず、良心にのみ従う、とても自由な仕事です。また、転勤によって、名も知らぬ町に住み、人に慣れ親しみ、全国各地に第二、第三の故郷ができることで、人生が豊かになったと感じます。裁判所内にも岐阜高校出身者は多く、皆さん個性的で魅力的です。

現在、週に一度、同志社大学法科大学院で教鞭をとっており、先生になる夢も運良く叶いました。先生方を思い出しながら、人の可能性を広げるお手伝いという形で、恩返しできればと思っています。

まだまだ未熟ですが、今後も、岐阜高校でいただいた御恩への感謝を忘れず、価値観が多様化、変容する社会の中で、凝り固まることなく、真摯に、探究を続けていきたいと思えます。

末筆ながら、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

岐阜高校での二回の学び

平成13年卒

佐藤 正志



会報への寄稿依頼のメールを頂いて思案し、恥ずかしながら私自身の岐阜高校での二回の学びを振り返ってみようと思います。私の二回の学びは、一回目は一人の生徒として、二回目は教員免許取得を目指す教育実習生として、です。

生徒の三年間は、部活動中心の生活を送り、各教科の成績もほぼ並な平庸な一介の生徒にすぎませんでした。授業で課される宿題や小テストには連日苦しみ、そして適度に手を抜いていた(先生方、申し訳ありません)記憶があります。それでも興味関心があった地理だけは、自分自身の力を伸ばしたい、そして地理学が専門で学べる大学に行きたい!という思いで、授業に取り組んでいました。当時、地理のご担当でした原先生には、様々な手厚いサポートを頂いたことを覚えています。

大学進学後、地理の教員を道路に考えていたこともあり、三年次の担任だった下川先生にお願いをして、教育実習を受け入れていただきました。実習の折は、平光先生にご指導頂きましたが、担当フランスの生徒たちは頭の回転が非常に早く(高校生ワイズの優勝メンバーとなった生徒もいました)、自分自身の理解と生徒たちの学びとのギャップを毎日のように感

じていました。今思えば、教育実習での経験が、地理学に関する更に深い理解の必要性を再認識するきっかけになったのかも知れません。

現在私は、静岡大学教育学部で地理学分野の教員をしています。日々教員養成とともに、地理学の面白さ・楽しさ・奥深さを学生たちに伝えることに取り組んでいます。岐阜高校での二回の学びのいずれもが、現在の仕事で大きく関わることになるとは思っていませんでしたし、同時にとても「有難い」ことだと感じています。現在の私の仕事や取り組みを高校生当時の私に伝えたらならば、きっと一笑に付されることでしょう。

昨年末、岐阜地理学会・名古屋地理学会が開催したシンポジウムに登壇する機会を頂いた折、原先生と再会しお祝いと励ましのお言葉を頂くことができました。また、現在岐阜高校で教鞭を取られている川村先生にはそのシンポジウムで大変お世話になるとともに、母校の近況を伺うことができました。こうした機会を頂けたことが大変嬉しく感じるとともに、岐阜高校での二回の学びを社会に還元することが、今後私自身が果たしていく役割なのではと考えています。

末筆ではありますが、岐阜高校ならびに卒業生の皆様の益々のご発展をお祈り申し上げております。そして、久しぶりの対面での同窓会が、盛会となりますように!

文武両道

平成13年卒

中西 則文



コロナ禍を経て五年ぶりの通常の同窓会開催。同級生の幹事をはじめ、運営に携わっている皆様ありがとうございました。これまで同窓会の出席はゼロ、会報まで作成されていくことも今回の依頼で初めて知りましたが、久しくお会いしていない同級生への近況報告を兼ねて、寄稿させていただきます。

いつの間にか、岐阜で過ごしたよりも長い期間を岐阜以外の土地で過ごしています。とはいえ、地方勤務が多い仕事柄、東京以外に、宮城、熊本、京都で生活をしている期間が九年ほどあり、通算ではまだ岐阜での生活が一番長いです。私は羽島市出身で、実家は新幹線の岐阜羽島駅を降りて近くにあるのですが、駅前にビジネスホテルができたリ、パチンコ屋が二トりに変わっていたり、コストコができていたり、ときどき帰省で訪れると、田んぼの真ん中に新幹線の駅、というイメージから、交通の要衝らしい変化を遂げつつあることを実感します。

私は、大学卒業後、総務省に入省し、人口減少・少子高齢社会を迎える我が国において、地域社会や住民生活が持続可能であり続けられるよう、必要な地方自治制度や地域力創造施策の企画立案などに携わっています。自治体勤務も多く、前述のように日本の様々な地域に住む機会があります。気候や食べ物はもちろん、まちの雰囲気や人柄、地域課題も多種多様で、赴任先では

そういった土地勘のようなものも含めて学ぶことが多い一方で、かえって地元のことには知っているようであり知らないなあと省みる今日この頃です。

高校時代の思い出を振り返ってみて浮かんだのはタイトルのとおり。学びで言えば、大学に合格できたのは、二〇〇点満点で平均五〇点未満も珍しくない数学のテストで鍛えられたからかなと思います。また、仕事で我が国の政治や統治機構の変遷などを学ぶことが多いのですが、近現代史で勉強したなあと思いつくこともたびたびです。運動で言えば、バスケット部で一度ベスト四進出を成し遂げたものの準決勝で岐阜農林にボコボコにされたこともありましたが、やはり二足のわらじで務めた応援団でしょう。クラスから応援委員を選出するという方式ではなかなか決まらず、業を煮やして私ともう一人がやる意思を示したと記憶しています。河川敷で大きな声を出したり、甲子園予選で灼熱のアスファルトの上で裸足で応援したり、根性が鍛えられました。あと、体育祭の応援団長をやらせてもらい、学年を超えて団員一丸となって振り考えたり打ち上げで盛り上がりたりののは楽しかったですね。

最後に、最近、総理官邸で勤務させていただいていますが、官邸に入りにいるマスコミの中にもじやもじや頭の元クラスメートを見つけてびっくり!卒業以来の再会でしたが、全然変わってなくて不思議な縁を感じました。同窓会での再会がいるんな縁に繋がればと思います。

高 岐 高 大 刊

第151号

令和5年5月12日
岐阜県立岐阜高等学校
PTA会長 後藤栄一郎
印刷/ヨツハシ(株)
題字/筑間 敏博

CONTENTS

- 創立百五十周年 挑戦を続けよう 学 校 長…………… p1
- 新年度を迎えるにあたり PTA 会 長…………… p2
- 第十二回科学の甲子園全国大会 進路指導部…………… p2
- 心豊かで思いやりある岐高生 生徒指導部…………… p3
- 「何事にも全力で！」 進路指導部…………… p4
- 令和5年度 進路指導計画 進路指導部…………… p4
- 令和5年度 大学入試結果 進路指導部…………… p5
- 令和5年度大学入試 合格者たちの声 …………… p5~p6
- 奄美大島・屋久島自然科学探究研修 進路指導部…………… p6
- 各年次団紹介 年 次 主 任…………… p7
- 6・7月行事予定 教 務 部…………… p8
- 令和5年度 教職員人事異動 …………… p8



▲対面式



▲入学式



▲部紹介



学 校 長
石田 達也

創立百五十周年

挑戦を続けよう

今年の春は例年よりも桜の開花が早く、新学期を迎える頃には、学校周辺の木々には新緑の若葉が芽を出し始めました。登校する生徒たちの表情にも、心機一転、今年度もがんばろうという気持ちが表れています。生徒たちは順調に新年度のスタートを切っているようです。

四月十日には、柔らかな春の日差しの中、令和五年度岐阜高校入学式を挙行し、三百六十三名の新入生を迎えることができました。

新入生の保護者並びにご家族の皆様、改めて、ご入学、誠におめでとうございませう。これにより、今年度は全校生徒一〇七五名で新たなスタートを切ることになりました。

入学式では、新入生に対して、各自の夢や希望を叶えるため、高校生活において期待することを二つ話しました。

一つ目は「幅広く新たな活動に積極的に挑戦する」ことです。高校では、学業以外にも活躍の場は数多くあります。新たな挑戦は、視野を広げ、人間性を高め、必ず大きな飛躍をもたらします。決して臆することなく、友人と互いに切磋琢磨しながら、新たな活動に積極的に挑戦することを期待します。

二つ目は「二つの『じりつ』を獲得する」こ

とです。その一つは自らを律する「自律」です。自らを律するとは、自分の信念に従い、自分の行動をマネジメントすることです。時間の使い方、優先順位、弱点強化など、自分の行動がマネジメントできれば、能力は必ず向上します。

もう一つは、自らの足で立つ「自立」です。入学後は自分の将来を自分の意志で選択することが重要です。選択には責任が伴いますが、納得できる選択ができれば、実行力には力強さが加わります。新入生には「自律」と「自立」を獲得することを期待します。

また、同じ日に行われた前期始業式では、WBCやメジャーリーグで二刀流の活躍を続ける大谷選手が高校時代から活用している「目標達成シート」を例に挙げながら、「二・三年次生にも「自律」と「自立」を意識することの重要性を伝えました。

あわせて、創立百五十周年を迎えるにあたり、岐阜高校の良さを再確認し、愛校心を一層高めて、さらに新たな歴史を築いていこうと生徒たちに呼びかけました。始業式の最後には、約四年ぶりに生徒・職員全員で校歌を斉唱し、感慨深い時間を過ごすことができました。

生徒の皆さんには、本校の長い歴史を継承し、伝統にさらに磨きをかけながら、歩みを止めず、校訓「百折不撓 自强不息」を貫き、高みを目指して挑戦を続けてほしいと大いに期待しています。私たち教職員も、皆さんの心に火をつけるため、精一杯の支援を行います。

保護者の皆様には、今後とも本校の教育活動にご協力いただきますとともに、生徒たちの成長と夢の実現に向けて、温かいご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

各年次団紹介

1年次団



◎年次主任 ○副年次主任

年次所属	古川 徹 (芸術)	9組副担任	竹本奈菜子 (英語)	8組副担任	阿部希空衣 (芸術)	7組副担任	田中 諭志 (数学)	6組副担任	北川真珠子 (国語)	5組副担任	遠藤久美子 (理科)	4組副担任	金武 愛子 (国語)	3組副担任	筑間 敬博 (芸術)	2組副担任	服部 晶子 (保健体育)	1組副担任	今井 順也 (数学)	年次所属	北川 幸久 (数学)	年次所属	太田 晶子 (理科)
年次所属	谷口 輝己 (芸術)	8組担任	森 (理)	7組担任	○藤澤 友祥 (国語)	6組担任	井上 智也 (地歴・公民)	5組担任	大野 玲子 (英語)	4組担任	武藤 雅紀 (数学)	3組担任	○森 智子 (英語)	2組担任	若岡 亮仁 (数学)	1組担任	岸本 真里 (英語)	年次所属	若岡 亮仁 (数学)	年次所属	岸本 真里 (英語)		

2年次団

◎年次主任 ○副年次主任

年次所属	加藤早亜也 (数学)	9組副担任	水谷 圭佑 (地歴・公民)	8組副担任	山崎 友梨 (数学)	7組副担任	小林 里恵 (理科)	6組副担任	日比野良平 (保健体育)	5組副担任	市原 英正 (保健体育)	4組副担任	柘植 望 (保健体育)	3組副担任	高瀬 智子 (国語)	2組副担任	後藤坊太郎 (地歴・公民)	1組副担任	大谷 太一 (地歴・公民)	年次所属	白木 聖美 (英語)	年次所属	伊藤 拓廣 (情報)
年次所属	各務なつみ (国語)	9組担任	○伊藤 翼 (数学)	8組担任	石川 翔太 (英語)	7組担任	小池 春陽 (英語)	6組担任	○覺田 敬 (理科)	5組担任	及川 太郎 (理科)	4組担任	澤田 宏 (国語)	3組担任	井深 克憲 (数学)	2組担任	塩澤 一樹 (数学)	1組担任	木野村淳子 (英語)	年次所属	木野村淳子 (英語)		



3年次団

◎年次主任 ○副年次主任



年次所属	伊藤 誠司 (理科)	9組副担任	古川 真哉 (国語)	8組副担任	石博 啓乃 (数学)	7組副担任	糸井 紀 (英語)	6組副担任	堀口 和人 (数学)	5組副担任	古橋康次郎 (英語)	4組副担任	森本 碩 (英語)	3組副担任	福田 順子 (英語)	2組副担任	川村 謙二 (地歴・公民)	1組副担任	岩井 恭平 (保健体育)	年次所属	藤吉真理子 (国語)
年次所属	加藤 健司 (地歴・公民)	9組担任	○前田 博子 (英語)	8組担任	若山 智也 (国語)	7組担任	早水 寛幸 (理科)	6組担任	永瀨 晶子 (数学)	5組担任	田口宗右都 (理科)	4組担任	○八代 周士 (数学)	3組担任	棚橋 兼久 (理科)	2組担任	伊藤 誠人 (理科)	1組担任	伊藤 誠人 (理科)	年次所属	伊藤 誠人 (理科)

高 岐 高 大 刊

第152号

令和5年7月12日
岐阜県立岐阜高等学校
PTA会長 後藤栄一郎
印刷/ヨツハシ(株)
題字/筑間 敏博

CONTENTS

- テーマを決めて学習に取り組もう 進路指導部…………… p1
- 第一回学校運営協議会 報告 教 頭…………… p2
- 充実した夏季休業のために 生徒指導部…………… p3
- 教育相談室より 生徒指導部…………… p3
- 令和5年度PTA総会のご報告 PTA副会長…………… p4
- 東海地区高等学校PTA連合会
岐阜大会に参加して P T A 会 長…………… p4
- GRIT~やりぬく力~ 3年次委員長…………… p4
- 自分で決断する力 1年次委員長…………… p5
- 新時代を生きる 1年次副委員長…………… p5
- やはり、最後は「人」 2年次委員長…………… p5
- 一度きりの高校生活 2年次副委員長…………… p5
- 遠足 1~3年次…………… p6
- 林間学舎活動について 1年次会…………… p6
- 創立150周年記念野球大会 硬式野球部…………… p7
- 前期生徒会発足 生徒会長…………… p7
- 全国大会出場 囲碁将棋部…………… p7
- 部活動だより 特別活動部…………… p8



▲創立150周年記念野球大会応援の様子



▲陸上部・東海大会出場

テーマを決めて学習に取り組もう 進路指導部

1年次生のみなさんへ

年次が変わり新たな気持ちでスタートしてから早くも3か月が経ち、夏休みを迎えようとしています。この3か月、みなさんは充実した高校生活を送ることができましたか？今年、新型コロナウイルス感染症による行動制限がほとんどなくなっただけで、様々な活動に積極的に取り組む姿が多く見られました。学習面ではいかがでしたか？本日は、少し理解できていないところがあつて、しっかり復習したいけど十分に取組めなかった、発展的な学習に取り組みたいと思つても、部活動や翌日の予習や小テストの勉強のためにできなかったなど、自分の思い通りにはならなかったというところがだれにもあるのではないのでしょうか。

夏休みは、まとまった時間を自分の考えで自分のために使える貴重な5週間です。この3か月の振り返りをもとに、理解が不足している内容の復習を行ったり、興味のある発展的な内容に果敢に取り組んだり、じっくり深く考えたり、完璧に覚えたり、理解できるまで徹底的に追究したり、この3か月間でできなかったこと、やり残したことを取り戻すには絶好の機会です。この夏休みに何に取り組むか、自分自身でテーマを決めて学習に取り組みましょう。学習以外においても、部活動に励んだり、興味関心のある分野を探究したりする日々を過ごして、学習面、知識面、体力面で大きく成長できる夏休みにしてください。学校が再開する8月末には、みなさんがさらに成長して新たな良いスタートを迎えることが期待しています。

岐阜高校へ入学して初めての夏休みを迎えますが、この3か月で中学生から岐高生に成長できたでしょうか。4月当初は、隣に座っている仲間がどんな人かわからず、だれもがものすごく賢いばかりに見えたかもしれません。テストの成績に一喜一憂することもあつたでしょう。しかし、学習について今の時点で他人と比較することに価値はありません。大切なことは、自分の理解度を上げることです。夏休みは、各教科から多くの課題が出されています。その課題にどのように取り組むかが非常に重要です。課題に取り組みながら、自分の理解が不足している部分を認識し、それを克服できるように努めましょう。さらに、余裕がある人は、もっと深く掘り下げた学習にも取り組んでみましょう。自分にできる一杯のことに実践して大きく飛躍する夏休みにしてください。一方で、社会の新型コロナウイルス感染症対策による行動制限はほぼ解除されました。ジョイントセミナーat東大も4年ぶりの現地開催となります。また、ほとんどの大学で実際に訪問する形のオープンキャンパスが計画されています。大学によっては、オンライン形式との併用の場合もあります。それぞれの良さを認識し、積極的に参加して、将来のことをよく考える機会としてください。将来、自分がここで学びたいと思える場所を見つけましょう。また、FPTで取り組んでいる講義動画の一つでも多く視聴して知識を深めるとともに、卒業後自分が学びたい分野について考えてください。

創立150周年記念野球大会

硬式野球部 部長 八代周士

岐阜高校創立150周年記念事業の一環で、記念野球大会が5月21日、長良川球場に青山学院高等部を招いて開催されました。

今回、青山学院高等部を記念試合に招いたのは、両校のもつ歴史が関係します。岐阜高校硬式野球部の創部は岐阜中学時代の明治17年(1884年)、当時の国画家教師平瀬作五郎が生徒に野球を教えたのが始まりとされています。

青山学院野球部は明治16年(1883年)に、青山学院の前身である東京英和学校で宣教師であったジェームス・ブラックレッジ先生が野球を教えたという記録があり、その年を創部としているそうです。

本校創立150周年という大きな節目にあたり、学校とともに歩んできた硬式野球部の歴史も岐阜県と全国の皆様にご紹介し、部員たちにも歴史を担う「使命感・責任感」を与えたいと思い、同じ「日本最古の野球部」である青山学院高等部に打診し、この対決が実現しました。

大会当日は晴天に恵まれ、多くの在校生、両校の卒業生に見守られる中での試合となりました。序盤は、相手投手の巧みな投球にかわされながらも、四回、岐阜高校伝統の「集中打」で4点を先制すると、五回、主将篠田の一打で3点を追加し、試合を優位に進めました。中盤以降、3点を返されるも、8対3で岐阜高校が勝利を収めました。閉会式では、青山学院渡辺健高等部長が「神宮球場でリベンジしたい」とあいさつされ、スタンドが大いに沸きました。そして、閉会式のあいさつを終えたとき、球場全体から大きな拍手が鳴り響き、自然と目頭が熱くなりました。

私自身、平成17年に岐阜高校を卒業し、岐阜高校創立130周年の際には、選手として記念試合を経験させていただきました。高校生の時にお世話になった恩を返したいと思い、岐阜県の教員となり、母校へ赴任してきたのが十年前、創立141年の年でした。母校での勤務を重ね、学生の時とは違う「歴史を引き継ぐ使命感」を感じ、負けぬよう走り続けた十年間でした。閉会式の拍手で目頭が熱くなったのも、この十年間、多くの卒業生の皆様に支えられ、守られてきたことを思い出しただけでなく、「まだまだ頑張れよ」という激励の拍手にも感じる事ができるからなのかもしれません。

目まぐるしく変わる時代の中でも、「変わる良さ」と「変わらない良さ」があるのが岐阜高校だと思っています。新しい時代を切り拓く人材を育むため「進化する岐阜高校」であり続けながらも、150年経っても変わらない「百折不撓・自强不息」の岐高魂を次世代へと引き継ぐべく、母校の後輩たちと共に、更に精進して参ります。

最後になりましたが、テスト前の多忙な時期にお越しいただいた青山学院高等部の皆様、大会の開催に際してご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。



前期生徒会発足

前期生徒会長 前川 祥吾

前期生徒会として正式に活動し始めて2か月が経ちました。今年の岐阜高校は創立150周年記念の年でもあり、様々な行事が実施されています。先日行われた野球部の招待試合もそのひとつです。

さて、今、生徒会として力を入れているのは8月末から9月の初めに行われる岐高祭です。今年の5月からは新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、コロナ禍にはない活気の溢れた生活が戻っており、僕たちにとっては全く新しい岐高祭になります。本来の岐高祭をまだ経験したことがないので生徒会一同不安もありますが、様々な人の意見を取り入れながら成功に向けて取り組んでいきたいと思っています。

全国大会出場

囲碁将棋部 2年 石川 琴子

私たち囲碁将棋部は、全国囲碁選手権大会岐阜県大会で、個人、団体の部で男女ともに優勝を果たし、東京で開催される全国大会と、かごしま総文に出場します。

個人戦では、それぞれのブロックで持てる力を出し切ることができ、参加した全員が一勝以上することができました。一方、団体戦は三人で出場し、自分が負けてもチームとして勝つという場面も多く、団体の醍醐味を肌で感じる大会となりました。

部活の練習は部員同士の対局がほとんどで、今年の入部者が多く、和気あいあいとした雰囲気になっています。人によって戦い方はさまざまですが、普段からその多様な戦法に触れて楽しんで対局できるのが、今の私たちの強みだと思います。対局する中で高め合い、全国大会では勝利を目指し思う存分楽しみたいです。



▲前期生徒会執行部 集合写真

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 会計(2年1組)
森 俊和 | 会計(2年1組)
岩間 大輝 | 書記(2年8組)
富永 実希 |
| 書記(2年7組)
荒川 真衣 | 会長(3年7組)
前川 祥吾 | 副会長(2年2組)
田中 怜 |

そのために先生方、文化委員、体育委員、そして全校の皆さんの力が必要不可欠です。ぜひ生徒会へのご協力をよろしくお願ひします。みんなで最高の岐高祭にしましょう！

高 岐 高 校 だ じ り

第 153 号

令和5年12月15日
 岐阜県立岐阜高等学校
 PTA会長 武藤玲央奈
 印刷/ヨツハシ(株)
 題字/筑間 敏博

CONTENTS



▲150周年記念式典



▲文化祭

- 次のステップへ
- 「ジョイントセミナーat東大」を振り返って
- 新年度のコース選択・科目選択に向けて
- 冬季休業の生活について
- 令和5年度 PSセミナー
- [第72回全国高等学校PTA連合会大会宮城大会]に参加して
- 1・2年次PTフォーラムを終えて
- カディーム・ベル先生(ALTあいさつ)
- 岐高生の本気
- 帰ってきた？岐高祭
- 感動の体育大会
- 後期生徒会発足
- グローバルリーダー養成事業
- 修学旅行
- 創立150周年記念事業について
- 芸術とエンターテインメントの融合
- 部活動の主な成績・活動状況

- 進路指導部 p1
- 進路指導部 p2
- 教務部 p2
- 生徒指導部 p3
- 渉外部 p3
- PTA会長 p4
- 1・2年次委員長 p4
- 英語科 p4
- 前期生徒会 p5
- 前期文化委員長 p5
- 前期体育委員長 p5
- 後期生徒会長 p5
- 進路指導部 p6
- 2年次 p6
- GK150 p7
- 後期文化委員長 p7
- 特別活動部 p8

次のステップへ

進路指導部

令和5年は、社会全体で多くの行事が戻ってきた1年となりました。3年ぶり、4年ぶりに開催となった行事も多くありました。進路指導部としても、ジョイントセミナーat東大を4年ぶりに現地開催することができました。みなさんにとって、充実した1年になったのではないのでしょうか。

3年次生は、いよいよ入試本番を迎えます。共通テストを皮切りに、私立大、国公立大の前・中・後期と矢継ぎ早に行われていきます。私は、大学受験は、各自が学ぶ環境を勝ち取る戦いだと考えています。それぞれの試験に最善の準備をして臨んでほしいと思います。

2年次生は、11月の年次集会で、「修学旅行が終わったら受験生」という言葉があったと思います。今まで、英教国の3科目を中心に学習を行ってきましたが、理科・社会を視野に入れた学習に転換していきましょう。もちろん、必然的に学習時間が増加していくはずですが。

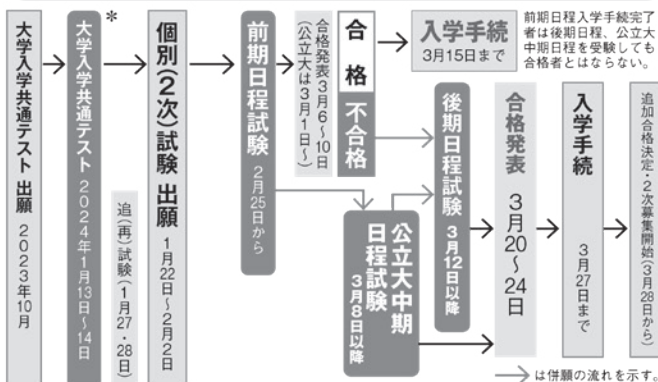
1年次生は、岐阜高校での多くの行事を経験し、先輩たちの偉大さを実感したことでしよう。また、仲間と切磋琢磨する充実した時間を過ごすことができました。と思います。

冬休みは、短期間ですが、新年を迎えるにあたって、次のステップへ進む転換期でもあります。今年の成果と反省を胸に、新たな決意をもって過ごしてほしいと思います。みなさんの健闘を期待しています。

2024年 大学入学共通テスト 時間割

期日	教科・出題教科	解答時間・記点・時間割
第1日 2024年 1月13日 (土)	地理 歴史	[世界史A][世界史B][日本史A] [日本史B][地理A][地理B] ○2科目選択/ 120分/200点
	公民	[現代社会][倫理] [政治・経済][倫理・政治・経済] ○1科目選択/ 60分/100点
	国語	[国語] ○80分/200点
	外国語	[英語][ドイツ語] [フランス語][中国語] [韓国語] ○1科目選択/ 80分/100点 [リスニング] ○英語のみ/30分/100点
第2日 2024年 1月14日 (日)	理科①	[物理基礎][化学基礎] [生物基礎][地学基礎] ○2科目選択/ 60分/100点
	数学①	[数学I][数学II・数学A] ○1科目選択/ 70分/100点
	数学②	[数学II][数学II・数学B] [簿記・会計][情報関係基礎] ○1科目選択/ 60分/100点
	理科②	[物理][化学][生物][地学] ○2科目選択/ 120分/200点 ○1科目選択/ 60分/100点

2024年 国公立大入試日程



※前期日程と後期日程は、それぞれ別に募集人員が設定され、試験から入学手続きまで別々に実施される。これを「分離分割方式」という。両日程の合格発表を見届けてから入学先を選ぶことはできない。
 ※追(再)試験は1/27・1/28となる。詳細は大学入試センターのホームページ(www.dnc.ac.jp)をご覧ください。
 また個別試験の過試については各大学のホームページでご確認下さい。



岐阜県立岐阜高等学校

創立150周年 記念事業について

GK150 Unleash Your Possibilities
～岐高魂を世界へ解き放て～

岐阜県立岐阜高等学校は、1873（明治6）年に仮中学として開校され、2023（令和5）年には創立150周年を迎えました。これを記念して以下のとおり記念事業を実施しました。

グローバルリーダー 養成事業の支援

岐阜高校の「グローバルリーダー養成事業」を長期にわたって資金面で支援することになりました。今年度は、グローバル・スタディーズ・プログラム研修費助成制度に基づき、研修生一人当たり2万円、延べ38名の助成を実施しました。

林間学舎リニューアル事業

岐高魂の象徴とも言える林間学舎（遊学館）は、1968（昭和43）年に竣工して50年余が経過しました。今回の事業で、食堂棟のサッシの一新に加え、ブ

ロジエクターや大型スクリーンを設置し、体験活動や生徒間の交流の充実を目指したりリニューアル工事を実施しました。



親善野球大会

岐阜高校と並んで最古の高校野球部である青山学院高等部と、2023（令和5）年5月21日に岐阜メモリアルセンター長良川球場にて親善野球大会を実施しました。

「歴史を振り返りつつ」開催

（岐阜高校主催・同窓会との共催）



在校生徒の作品（絵画・彫刻・書・写真等）を中心として140点ほどを展示し、合わせて創立150周年を記念した歴史を振り返る展示を、岐阜県美術館において、2023（令和5）年7月14日～23日の10日間に行い実施しました。

岐阜高校向け記念品の寄贈

創立150周年を記念するモニュメントを寄贈しました。これまでの150年、これからの150年をコンセプトに、創立から10年刻みの年号を示す



ステンレス製の柱、合わせて16本と説明板をプロムナード沿いに足下の灯火と共に設置しました。

記念式典・記念講演会

2023（令和5）年10月29日

9時30分～12時30分

記念講演会講師：大栗博司氏

演題：人生で大切なことは

岐阜高校で学んだ

在校生に対してグローバルリーダーとしての意識醸成につながる記念式典ならびに記念講演会を長良川国際会議場にて実施しました。



1700名を超える同窓生・在校生の皆さまからは、「素晴らしい記念式典・講演会に参加できて満足している」などのお声を頂戴しております。これも保護者の皆さまにご支援いただいた賜物と、岐阜高校ならびに同窓会一同深く感謝しております。

この先も岐阜高校にとりまして、その歴史にふさわしく、また現役の高校生の未来に資する行事を展開していきたいと考えております。今後とも引き続き岐阜高校ならびに、岐阜高校同窓会にご支援賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

芸術とエンター

テイメントの融合

後期文化委員長 大杉 葵

音楽劇を含んだ音楽鑑賞会は皆の笑顔で満ちていました。

身の周りの音を表現した楽器紹介や、観客席まで間近に近づき、一体となって楽しむ演奏に心惹かれる人も多かったです。全体を通して音楽に親しみのない人でも楽しめる工夫が詰まっております、充実した時間を過ごすことができました。

音楽劇では、演奏者と俳優の情熱が組み合わさり、心に残るエンターテイメントを提供してくれました。劇の音響、演出は大変見事で、視覚、聴覚ともに引き込まれました。

会場の雰囲気は魔法のようで、観客は熱心に演技と音楽に没頭しました。音楽鑑賞会は芸術とエンターテイメントの融合であり、感動的な体験でした。この体験をきっかけとして音楽に親しみを持ち、心豊かな生活を送っていきましょう。



高 岐 高 だ よ り

第154号

令和6年3月1日
岐阜県立岐阜高等学校
PTA会長 武藤玲央奈
印刷/ヨツハシ(株)
題字/筑間 敏博

CONTENTS

● 創立百五十周年の卒業生として	学 校 長……p1
● 卒業によせて	PTA会長……p2
● 卒業生への餞として	3年次委員長……p2
● 卒業に寄せて	3年次副委員長……p2
● 令和6年度コース選択・科目選択の結果	教 務 部……p2
● 次はみなさんが岐高生のお手本に	進路指導部……p3
● 大学入学共通テスト自己採点結果	進路指導部……p3
● 2024年度大学入試出願状況(現役生のみ)	進路指導部……p4
● 大学入学共通テストを振り返って	進路指導部……p5
● 回り道を恐れずに	3年次主任……p6
● 3年間の思い出	3 年 次……p6
● 3年間皆勤賞・同窓会幹事	3 年 次……p6
● グローバルリーダー養成事業	進路指導部……p7
● 第二回・第三回 学校運営協議会報告	教 頭……p7
● 部活動の主な成績・活動	特別活動部……p8



▲共通テスト激励
(水垢離)▶



改めて、皆さんの高校三年間を振り返ると、本校に入学した令和三年四月には、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、学校行事や部活動は大きく制限されていました。その後も感染症を警戒し不安を感じ日々は続き、手指消毒、室内換気、マスク着用、黙食の徹底等、注意すべきことがいくつもありました。

そして、将来皆さんが社会人となったとき、経験を積んで中核として活躍するようになったとき、さらにはリーダーとして各分野を牽引するようになったとき、その時々で、創立百五十周年の卒業生であることが人との縁をつないだり、仕事の幅を広げたりして、その意味や重みは徐々に増すことになると思います。

皆さんは今、岐阜高校での横のつながりを大切にしていると思いますが、卒業後はそれに縦のつながりも加わり、岐阜高校への誇りと愛校心が今以上に大きくなることと思います。

本校は明治六年の開校以来、今年度で創立百五十周年の節目の年を迎えました。三年次生の皆さんは、その記念すべき年の卒業生となったわけです。



校 長
石田 達也

創立百五十周年の卒業生として

「考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる。」
(マーガレット・サッチャー)

「できると思えばできる、できないと思えばできない。これは、ゆるぎない絶対的な法則である。」
(パブロ・ピカソ)

「考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる。」
(マーガレット・サッチャー)

「できると思えばできる、できないと思えばできない。これは、ゆるぎない絶対的な法則である。」
(パブロ・ピカソ)

しかし、そのような状況であっても、皆さんは環境に惑わされず、自分が為すべきことに真剣に取り組みました。当たり前の日常の大切さ、友と語り合うことの楽しさ、切磋琢磨して学ぶことの素晴らしさを強く実感したからこそ、一瞬一瞬を大切に、学習にも学校行事や部活動にも情熱と向上心を持って取り組むことができました。



大学入学共通テストを振り返って（自己採点後の感想文より）

国公立大学（医学部志望）

私は、共テ前日や当日の休憩時間は今まで間違えた問題のやり直しや見直しノートの復習をしました。直前になると不安と焦りでやりたいことがたくさんできたり、何から手をつけて良いか分からなくなったりしたので、見直しノートがあつて良かったと感じました。

当日一日目、英語で、時系列が前後する問題や読みにくい問題に合わせて、一つの英文の量が多くなつていて時間が足りなくて焦りました。

私は理数よりも英語の方が自信があつたので、試験の後半は焦りで手が震えて、全然理解できませんでした。でも、とりあえずマークしておいたおかげで、ギリギリ最悪には到りませんでした。幸いなことに、これは一日目の最終科目だったので後に引きずる心配はありませんでした。しかし、二日、最初の数I Aで引き算ミスや整数問題が全然分からなくて、採点しなくても分かるくらい悲惨な状態でした。休憩時間は音楽を聞いたり、次の数II Bではなく物理の勉強をしたりして気を紛らわせました。結果、数II Bは自己最高でした。そのおかげで数I Aの点が少しカバーできました。次に引きずらず、各々の教科だけに集中することが大事だと思いました。

国公立大学（国際人間科学部志望）

共通テストの2日前くらいからかなり緊張していました。友達や塾の先生達と話して、かなり気が楽になった状態で向かうことができました。それでも、初日で初めに受けた世界史の時間は緊張が大きくて、手応えも全くなかったですが、先生のおっしゃっていた、1科目で終わるはずの失敗をわざわざ次

国公立大学（理学部志望）

岐阜生は高い志を持つ人が多く、共通テストの配点が低い大学を受ける人も多いと思います。そのため他の学校よりも、共通テスト対策を本格的に始めるのが遅くなることはしかならないことだと思います。なので、秋や冬の時期に「自分の志望校に見合った点数がとれない」と落ち込むこともあるでしょう。僕もそうでした。しかし、二次対策でつけてきた学力、底力があれば、最後の1ヶ月で大きく伸ばすことは可能です。共テの問題に慣れていくにつれて、自分の想像以上に、点数は上がります。なので、焦らず、諦めず、1日1日の学習を大切に、一つ一つの問題に貪欲に取り組んでください。大丈夫です。僕も最後の模試から130点伸ばすことができました。

本番の2日間ですが、陸上の大会の緊張に比べると大したことないなと思いましたが、リーディング、数学など、時間配分のきつい科目は緊張しました。そのときに、「大丈夫」と落ちつくことができたのは、今まで岐阜で切磋してきたからなのかなと思いました。

国公立大学（人間科学部志望）

私は共通テスト対策を11月半ばから始めました。共通テストは独特の問題のクセがあり、特に数学では毎日苦しめられ常に50点くらいしかとれませんでした。私は2年生の共通テスト模試から点数が悪かったわけではなく、ずっと680点後半で停滞していた目標の81%に届く気がしませんでした。私が伝えたいのは、共通テストの点数は最後の1日、いや直前の休み時間まで伸びるということです。私は年明けの2日目の特編でやっとポスターに達しました。最後まで諦めず自分にできることをやり続ければきっと点数は伸びます。本番は全く緊張しませんでした。いつも通り解けば点数はついてくると思っていました。

国公立大学（東京大学理科志望）

東大に出願できるであろう点数をとれて安心しています。12月の特編で絶望的な点数をとり、1月の共テ特編でも足切りを下回るであろう点をとったけれど、自分の可能性に賭けて良かったです。共テを通して多くの人に応援されているのを強く感じました。親だけでなく、先生や部活の後輩からの応援のメッセージ、友達との励まし合いを通して自分がこんなにも多くの人に気にかけてもらっているんだということに改めて気付くことも嬉しかったです。これから二次に全力で向かっていき、何とか合格をもぎ取りたいと思います。

後輩へ。どんな点数をとっても本番で奇跡を起こす自分を信じて諦めず前に進むことが大切です。本番前は風邪を引かないように気を付けた方がよいです。本番中は終了時刻を間違えないようにしましょう。辛いときは先生を頼るとよいと思います。

令和5年度 大学合格者数

大学名	合格者数
北海道大	5
東北大	2
筑波大	1
千葉大	3
東京海洋大	2
東京大	9
東京外大	1
東京学芸大	2
東京工業大	1
東京農工大	2
横浜国立大	2
新潟大	1
富山大	4
金沢大	4
福井大	3
岐阜大	45
静岡大	7
愛知教育大	1
豊橋技術科学大	1
名古屋大	43
名古屋工大	5
三重大	3
滋賀大	2
京都大	23
大阪大	10
神戸大	6
鳥取大	1
岡山大	2
広島大	7
九州大	1
大分大	1
国際教養大	2
東京都立大	2
福井県立大	1
岐阜薬大	13
名古屋市立大	12

大学名	合格者数
滋賀県立大	1
大阪公立大	7
兵庫県立大	1
奈良県立医大	1
国際医療福祉大	2
自治医大	1
東京歯大	2
青山学院大	10
学習院大	1
北里大	3
慶応大	26
工学院大	6
国学院大	1
芝浦工大	8
上智大	10
成蹊大	1
成城大	1
玉川大	1
多摩美大	1
中央大	25
津田塾大	1
帝京大	4
東海大	1
東京電機大	1
東京薬大	1
東京理大	54
東洋大	3
日本大	1
日本獣医生命大	1
法政大	19
武蔵野美大	1
明治大	44
立教大	2
早稲田大	37
マリアンナ医大	1
金沢医大	3

大学名	合格者数
松本歯大	1
朝日大	3
岐阜聖徳学園大	1
岐阜医療科学大	1
愛知大	3
愛知医大	6
愛知学院大	6
愛知工業大	1
愛知淑徳大	1
金城学院大	6
中京大	8
中部大	2
豊田工大	13
名古屋外大	16
名古屋学院大	1
南山大	43
藤田医大	5
名城大	72
鈴鹿医療科学大	1
長浜バイオ大	3
京都薬大	2
同志社大	95
同志社女子大	7
立命館大	121
大阪医薬大	4
関西大	12
関西医大	2
近畿大	7
関西学院大	16
神戸薬大	1
岡山理大	1
産業医大	1
気象大学校	1
防衛大学校	1

過年度卒業生も含む

令和6年度 同窓会総会運営委員会 名簿

担当部門	卒年	委員					
委員長	昭和56年	加納 正嗣					
副委員長	昭和56年	奥田 勝彦					
	平成3年	森島 祥哉					
	平成13年	四ツ橋憲彦					
事務局	昭和56年	◎古川真一郎					
	平成3年	○塩谷 義峰					
	平成13年	○林 健一郎					
総務部	昭和56年	◎古川真一郎	佐々木佳代				
	平成3年	○林 達秀	田中真美子				
	平成13年	○林 健一郎					
財務部	昭和56年	◎西原 浩文					
	平成3年	○濱野 正嗣	鈴木荘太郎				
監査	昭和56年	藤川 師弘					
	平成3年	平塚 正人					
会報部	昭和56年	◎伏見 智子	○北村多佳子	小酒井多会子	松本 律子		
	平成3年	○小石亜希子	深尾久美子				
	平成13年	○長屋 宏明	島塚 麻美	砂子 知香	中村 倫子	馬淵 杏奈	森本 祐介
広告部	昭和56年	◎大森康二郎	西村 睦男	林 康人	青木 茂雄		
	平成3年	○折戸 恵介	柳原 正明	広瀬 善克			
	平成13年	○高橋 清孝	高橋 博志	藤川 貴雄	伊藤 安奈	山内 裕子	
動員部	昭和56年	◎唐沢 理恵	○吉村 知哲	上村 修一	西村 睦男	山岸 義仙	石田 浩幸
		安田 美喜	水野 明子	河合佐和子	清水 暁	苗村 彰仁	阪本 江利
		小酒井多会子	宇野美津子	兼松 裕子	林 康人	玉井 修	山内 光代
		筒井 一					
	平成3年	○下村 裕司	矢内 良昌	廣瀬めぐみ			
	平成13年	○橘 行信	杉山 令耕	高木 里奈	溝口 達也	宮川 貴樹	
在京動員部	昭和56年	◎奥田 高志	増田 英明	田辺 和弘	遠藤 康之		
		神山 五月	安田 美喜	神谷ひとみ	水野 明子		
	平成3年	○山口 泰史	小川 輝洋	山藤 雅之	戸澤 和美		
平成13年	○神尾 祐樹	前田 悠太	松本 祥子	加藤有紀子	横山 芙美		
会場部	昭和56年	◎上松美由紀	村上 寛誉	宇野美津子			
	平成3年	○松本 健巳	松本 治美	内藤 真澄	佐藤 佳子	吉田 仙良	桂川 潤
		高橋 郁亮					
	平成13年	○柳場 雄貴	亀山 拓哉	林 早紀	坂井田美希	松尾真理代	北田 善彦
中村 直永							

◎事務局長、部長 ○副事務局長、副部長

応援团团歌

- 一、金華城頭月冴えて
蓋世の英雄信長の
万象すべて沈黙なり
雄図の跡に苔むしぬ
- 二、嗚呼熱血児信長の
ありし昔を偲びては
覇業は夢と消え果てど
健児無量の想ひあり
- 三、熱血受けし一千の
桜の香り身に沁みて
心一つの健児等が
根城構へて百三十余年
- 四、悲壯の風の吹き荒び
校の徽章の桜花
混濁の波逆巻けど
身もて護る健児団
- 五、如何なる敵の迫るとも
破邪の剣をぬき立てば
寄せ来る仇は多くとも
竜車に向う螻蛄ぞ
- 六、敵に鬼神の勇あるも
我には紅き血潮あり
仇に天魔の計あるも
からくれなるを見ずや君
- 七、さはあれ心せ同胞の
桜の花の散るあらば
香りは永き百三十余年
散るその下に死なん哉
- 八、誘ふ嵐に散らされず
朝日に匂ふ桜花
尽くせし心の現はれて
その花の下に我れ立たん

凱旋歌

- 一、泰山厲と消ゆるとも
誓つて桑梓に見えじと
我が身に功なかりせば
出でし華陽の健男児
- 二、されど見よ見よ今はこれ
姿を変えて悠々と
我が大丈夫は帰り来ぬ
身に大功の光そへ

令和六年度 総会出席者名簿

■来賓

在京(首都圏)

岐阜高校同窓会会長

尾関 良平

(昭和37年卒)

岐阜市長

柴橋 正直

(平成10年卒)

岐阜高等学校校長

石田 達也

(昭和57年卒)

幹事学年恩師

小邑 政明

中谷 達美

高橋 章

網野 俊六

堀 有吾

宮川 直樹

田村 弘司

岩田 孝志

石崎 吉一

林 辰郎

和田 喜孝

高瀬 昭範

下川 治

■会員

〈岐中〉

昭和20年卒

杉山 幹夫

昭和29年卒

〈岐高〉

清水 外治

安江 紀子

昭和30年卒

多和田 弘子

昭和31年卒

金武 恭

神山 公一

野々垣 孝

昭和33年卒

高安 義英

西澤 恭平

昭和34年卒

天野 桂子

鷺見 貴江

安田 仁彦

昭和35年卒

片桐 多恵子

武内 章

平塚 正之

安田 洋一郎

昭和36年卒

今井 春昭

松原 基明

昭和37年卒

浦田 桂子

岡本 文吉

古谷 葉子

昭和38年卒

葛谷 武彦

中谷 克彦

昭和39年卒

桐井 犬三

昭和40年卒

岩井 弘栄

衣笠 宏允

森川 幸江

山田 謙一

山村 哲朗

昭和41年卒

石井 正志

後藤 真一

水谷 邦照

新美 佐知子

昭和42年卒

後藤 三郎

則竹 晶

山口 隆士

昭和43年卒

青木 広久

石田 栄

岩間 憲三

大橋 卓二

昭和44年卒

長繩 幸子

瀬川 順子

昭和46年卒

有江 龍夫

犬飼 重仁

大槻 俊夫

岡田 正昭

早矢仕 直彦

木方 伸一郎

木村 容子

黒田 修

五島 浩利

嶋崎 吉弘

鷺見 博信

関谷 啓子

陳 薫子

土屋 浩

遠山 一喜

今井 芳子

中川 隆

栗野 彰子

久松 純一郎

細井 隆之

松井 春雄

昭和47年卒

後藤 寿彦

森岡 宏行

昭和48年卒

小川 晃

坂井田 勉

杉山 保幸

山田 伸

昭和49年卒

杉山 正裕

伊藤 容子

梅沢 敏郎

加納 道久

道家 香子

馬場 祐子

奥村 裕子

橋詰 芳範

吉田 光恵

南谷 清司

遠藤 宏治

水谷 健

水野 耕司

三宅 雅之

昭和50年卒

篠田 達郎

渋谷 英司

園部 利彦

竹内 淳二

松井 義親

松田 一雄

松波 英寿

村瀬 幸雄

山本 典孝

渡邊 篤

伊藤 武

伊藤 仁光

市橋 正樹

小川 真弓

眞野 綾子

木村 昭孝

桑原 克全

近藤 至徳

神谷 眞弓子

坂井田 勝治

佐藤 通彦

杉山 隆

柵橋 功史

間所 陽一郎

松久 卓

溝渕 健一

平尾 悦子

山下 繁生

山口 正人

水野 静

昭和52年卒

足立 富士夫

久松 明美

鈴木 智子

野原 正美

山田 裕子

昭和53年卒

香田 和宏

高橋 研二

吉田 万里子

伊在井 みどり

川尻 智子

杉山 文康

村橋 祥衣

昭和55年卒

前川 博行

飯沼 宣樹

細川 育子

林 隆之

堀 貴雄

朝居 康浩

加藤 祐八郎

服部 敬

安田 章男

脇田 昌也

佐伯 淑子

山下 繁生

山口 正人

水野 静

昭和56年卒

上村 修一

遠藤 康之

加納 正嗣

後藤 浩

近藤 惣一郎

富田 渡

西川 英彦

平野 量哉

宮下 哲

山田 雅春

山本 啓二

青木 茂雄

金武 康文

高木 第児

中島 和也

西村 睦男

堀 裕彦

雨宮 功治

津崎 誠

堀 明彦

松下 裕一

武藤 清

森 幹尋

吉村 知哲

奥村 三恵

唐沢 理恵

片桐 麻由美

岩井 みはる

栗島 智美

矢野 充

平工 弥生

長谷川 実

総会出席者名簿

伊藤 信彦	大森 康二郎	葛西 徳道	花村 勇	藤井 正隆	山岸 義仙	白井 真弓	河地 好江	鈴木 雅也	立木 昌昭	西村 貴久	福留 朗裕	熊田 典枝	安田 美喜	青木 留美子	水野 明子	井藤 正俊	奥田 高志	清水 暁	藤川 師弘	三尾 剛志	水崎 進一	松本 律子	坂下 友香里	河合 佐和子	棚橋 隆子	井関 明美	清水 知子	伏見 智子	小森 敏晴	高橋 泰生	苗村 彰仁	永田 伸	平田 高義
矢野 厚登	澤田 理恵	阪本 江利	岩平 純子	小酒井 多奈子	奥田 美幸	青木 秀樹	奥田 勝彦	河合 成人	河合 良成	久野 譜也	河野 祐司	近藤 智靖	林 俊彦	林 広樹	林 康人	洞山 正雄	前田 直宏	村上 寛誉	安田 浩己	小野間 由香	宇野 美津子	小栗 弥生	佐々木 佳代	兼松 裕子	佐藤 悦代	小沼 ゆかり	神山 五月	小川 豊子	野田 貴子	高橋 恵美	佐々木 美幸	五十里 忍	近藤 雅俊
坂井 孝行	玉井 修	都築 良則	西原 浩文	西村 浩司	古川 真一郎	河村 裕美	遠山 勢津子	伊藤 夕美	神谷 ひとみ	山内 光代	北村 多佳子	中根 由美子	美濃地 由里子	諏訪 正子	尾関 佳代	伊藤 浩	田辺 和弘	筒井 一	増田 英明	横山 克義	村松 陽子	炭竈 真理子	内藤 勝彦	昭和57年卒	安達 宗徳	青木 智英	川瀬 幸彦	住田 仁志	豊田 博康	金武 健稔	篠田 俊治	村井 達也	
若園 明裕	市川 敦子	伊藤 恒夫	松原 寛和	梶山 記久子	加藤 由美子	戸田 真由美	市村 みゆき	山田 秀夫	近藤 かよ子	松岡 正人	吉原 りえ	丹下 緒美	棚橋 好子	廣瀬 祐子	宇野 吉浩	矢本 哲也	斉藤 寿子	玉護 真理子	服部 美由貴	大和 和昭	昭和58年卒	藤井 智幸	毛利 泰康	鳥澤 昌紀	石原 幸喜	渡邊 勇	太塚 茂記	松本 智津子	服部 弘典	加藤 正樹	尾藤 善昭	野々垣 貴美子	
澤田 悦子	昭和59年卒	高橋 浩子	成瀬 幸子	昭和60年卒	後藤 尚久	亀山 正倫	林 克彦	青木 繁美	後藤 誠一郎	浦山 晶子	昭和61年卒	池田 謙	国井 重宏	早川 徹	昭和62年卒	森崎 成城	川崎 賢二	澤田 大輔	平成元年卒	毛利 泰康	鳥澤 昌紀	石原 幸喜	渡邊 勇	太塚 茂記	松本 智津子	服部 弘典	加藤 正樹	尾藤 善昭	野々垣 貴美子				
山藤 雅之	清水 也人	炭竈 憲一	中島 剛	廣野 秀治	矢内 良昌	山賀 賢司	山田 泰広	大曾根 淳	桑原 英幸	西村 勇人	前田 俊宏	増栄 成泰	宮田 明和	三輪 好生	山口 泰史	吉田 仙良	今枝 光宏	久世 敏秀	後藤 文孝	佐藤 裕之	篠田 典宏	鈴木 莊太郎	高橋 孝輔	浜田 直幸	柳原 正明	吉田 祐介	伊塚 良彦	木野村 裕也	中山 正雄	野田 和宏	濱野 正嗣	林 達秀	川本 美奈子
陣田 綾	佐藤 佳子	森 いづみ	大野 貴志	奥村 直規	折戸 恵介	栗本 太志	桜井 寿之	下村 裕司	永田 裕規	松本 健巳	水野 美弥子	萩原 由里	田代 ゆかり	神谷 真希	後藤 晴美	堀部 佳子	松本 治美	鈴木 絵美	安田 晋子	鈴木 真紀	半藤 恵	大谷 円秋	中村 頼之	安田 昌弘	ストーンさちこ	端元 加奈子	所 えり子	瀬尾 桂子	小酒井 妙	加藤 純子	森 祐子	安積 孝師	塩谷 義峰
葛谷 友治	柴垣 智	陣田 宗則	住 寛嗣	田中 清人	長瀬 一也	林 潤一	廣瀬 啓司	廣瀬 善克	森 健治	吉澤 稔	石樽 久尚	井上 正則	井端 泰裕	櫻井 登志	高橋 郁亮	平塚 正人	森嶋 秀紀	山形 幸子	郷 絵美	金森 千佳	熊切 理恵	廣瀬 めぐみ	内藤 真澄	丹羽 夏香	赤坂 由紀子	戸澤 和美	安達 徹也	石神 秀朗	大洞 龍真	恩田 靖大	中島 祐志	杉浦 美佐樹	岡 まなみ

亀山 晴美	川瀬 友亜	平成10年卒	川出 七穂	高橋 博志	藤川 貴雄	加藤 拓也	岐阜高校同窓会担当 の先生
渡邊 綾子	武藤 玲央奈	藤川 愛	宮前 里奈	土屋 貴史	柳場 雄貴	大関 磨美	
舟木 美千代	村瀬 範晃	高橋 克徳	角 依美	内藤 紀子	土田 裕子	和田 めぐみ	
西脇 理恵	遠藤 久志	林 可奈子	林 可奈子	高木 里奈	松尾 真理代	奥村 彰規	
關 保代	青山 正和	平成12年卒	山家 久美	加藤 有紀子	清家 千明	奥村 真衣	
古田 祐子	金森 香織	玉井 裕也	長屋 宏明	西松 明子	木村 姉守絵	阪田 佳子	
小本曾 浩介	後藤 篤志	平成13年卒	岩砂 友美	瑞慶山 純奈	阿部 恵里	加藤 英	
橋本 豊樹	廣瀨 知也	龜山 拓哉	廣瀨 千穂	荒川 健吾	砂子 知香	平成20年卒	
森島 祥哉	松原 啓泰	清水 健太	小田 和正	田口 貢大	田口 佳美	加藤 英	
山田 浩司	白木 雄一郎	鈴木 和馬	北田 善彦	林 貴昌	中村 倫子	平成21年卒	
山本 千穂	伊藤 知子	高田 和哲	五藤 佑典	山田 雄太	木村 衣里	橋爪 大	
前田 和代	鈴木 康也	高橋 宏臣	小邑 健二	林 早紀	横山 芙美	平成21年卒	
小石 亜希子	後藤 栄一郎	豊田 靖浩	小森 章太	齊田 祥子	鈴木 加弥子	平成22年卒	
長谷川 なおみ	平成6年卒	中村 直永	渡邊 学	横田 和美	平成14年卒	堀内 裕太	
小寺 千穂	恩田 昌直	前田 悠太	淺野 恵理子	稲木 恵	内藤 徹之	平成22年卒	
深尾 久美子	平成7年卒	三品 聡範	宮川 浩美	澤田 桂子	矢野 好輝	平成27年卒	
高木 彰子	新美 祐介	淺野 誠	伊藤 安奈	河村 哲子	木村 健太	武藤 快	
平成4年卒	小見山 吉朗	岩田 尚也	佐曾利 亜希子	神尾 祐樹	中島 洋岳	平成28年卒	
眞鍋 圭介	榎原 正臣	小川 哲治	佐藤 里菜	橘 行信	北村 昌彦	廣瀬 翔太郎	
石川 英昭	柴崎 晋	葛谷 徳宏	加藤 晶穂	佐橋 雄介	古川 侑		
大西 護	三浦 陽平	小池 幸弘	二村 はるか	藤田 敦大	吉田 和央		
堀部 拓也	瀬川 典秀	小林 尚弘	山内 裕子	藤田 佳英	伊藤 尚逸		
三輪 高之	安田 茂宏	竹村 滋芳	坂井田 美希	四ツ橋 憲彦	河村 純		
三和 拓人	竹中 雅史	林 健一郎	宮川 貴樹	花田 里英	武内 智康		
桑原 賢典	安田 茂宏	松尾 壮昌	山田 英典	加藤 理乃	宇野 納子		
澤田 尚子	伊藤 隼	溝口 孝良	山田 雄大	島塚 麻美	神谷 友康		
安藤 量基	小笠原 真雄	伊藤 隼	塚本 ちさと	棚橋 知子	熊澤 真理子		
高橋 正章	平成9年卒	傍島 淳	嶋口 万友	平光 初音	長尾 知佳		
水谷 直有企	川村 正憲	中川 雄平	田中 泉香	後藤 好美	大島 惇司		
吉村 太郎	小野塚 裕美	溝口 達也	長縄 好美	佐藤 正志	丹羽 亮平		
栗山 尚子		三宅 浩司	小林 嵩人	杉山 令耕	永井 利幸		
			杉浦 雅俊	中西 則文	山田 恭子		
				長良 敏希	中東 直代		

編集後記

▽広告のご協賛の

御礼

広告ご協賛を賜りました皆様のご厚情を掲載させていただく会報を無事、完成させることができましたことを、ご報告させていただきます。

なお、ご紹介順序は会報の構成上、原則的に順不同とさせていただきます。何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

令和六年六月二日

岐阜県立岐阜高等学校同窓会
令和六年度総会運営委員会

四〇歳から一〇年毎に三回、岐阜高校同窓会運営委員の役を引き受けさせていただきました。二〇年前、地元に住んでいるからと声を掛けられ、わからないまま引き受け広告を集めるお手伝いをしました。一〇年前、前回名前が載っていたから今回もと誘われ引き受けました。会報誌の寄稿を依頼したのを覚えています。二〇年前連絡はパソコンメールと電話が中心でした。

一〇年前の連絡はパソコンメールと携帯のメール、原稿は郵送の物もありました。

そして去年、同窓会運営委員長が中々決まらない中、加納さんが委員長を引き受けて下さり、加納さんが引き受けて下さったのなら、何か自分もお役に立たなければと思ひ会報部の部長を引き受けさせていただきました。

今はラインでグループを作成し、連絡は全てライン、会議にはリモートで参加する方もみえました。寄稿のやり取りもラインとパソコンのメールが中心です。お顔を拝見せずとも意思疎通ができます。お声をお聞きする事もなく物事が進んでいきます。つくづく時代の流れを感じます。

今回が最終担当学年という事で、今までよりは、より深く関わってききましたが充分とは言えずお引き受けしたものの、私では全く力不足だったと痛感しています。

会報誌は毎年大きく変わることなく今に続いています。このままで良いのか、と思う部分も多いのですが、一〇年毎に少し関わるだけで大きな変革をする勇気もアイデアも時間もなく、新しい構想も考えられないまま過ぎていってしまいました。この先も毎年作成されるであろう同窓会会報誌は、どう変わり何がかわらないままであるのか、作成に関わる事は無いですが、興味を持って拝見させていただきたいと思っています。

会報誌に寄稿を下された方々、お忙しい中ありがとうございました。又編集に力を貸して下さいましたヨツハシ株式会社様には本当に助けられました。心よりお礼申し上げます。至らない点が沢山ありました事お許し下さい。

会報部長 昭和五六年卒 伏見智子

令和六年度
岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会

会報

■発行

令和六年六月二日

■編集

岐阜県立岐阜高等学校同窓会

令和六年度総会運営委員会

■印刷

ヨツハシ株式会社